

第5回 武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会次第

日時：平成30年5月29日（火）

10:00～11:15

場所：3階会議室

<出席委員>

北川副市長、五十嵐（佐賀大学）、北原（県さが創生推進課）、川原（代表区長）、
小杉（ケーブルワン）、真谷（武雄金融協会）、江口（観光協会）、武富（連合佐賀）、
西田（女性ネットワークたけお）、神近（青年会議所）

※欠席：江越（眉山の森保全の会）、中村（市民団体）、嶺井（武雄公共職業安定所）、
下平（佐賀県農業協同組合）、梶川（武雄商工会議所）、外尾（武雄市商工会）

<事務局>

企画政策課（松尾課長、永尾係長、古川主任）、商工課（秋月課長、大宅係長、山下主任）、
広報課（大野課長）

1 開会

【松尾課長】 出席のお礼。会長へ議事進行依頼

議事に入る前に一言あいさつ

【北川副市長】 H27.10月に総合戦略策定。期間は5ヶ年。昨年度の事業を踏まえ、今年度の総合
戦略及び交付金事業についてさまざまな意見を頂戴したい。

2 議題

（1）さが未来スイッチ交付金事業について

・平成29年度事業報告

武雄市まちなみ創造事業（商工課）

さが未来スイッチ交付金事業（武雄市まちなみ創造事業）について、商工課 秋月課長、
山下主任より報告。

【小杉】当事業を通して、①実際どのくらいの人が訪れたのか。②参加者は固定化していないか。

③今後、当事業が武雄温泉駅北部市街地の活性化にどう繋がっていったのか。

→【山下】①昨年度の参加者は、マボロシ実験場含め温泉街で行ったイベントに約1,700名。

保養村で行ったイベントで約240名の参加があった。

②平成28年度に実施した事業に参加していただいた方が昨年度も参加いただくケースが
あり、一部固定化も見受けられたが、より武雄の良さを知ってもらう機会を提供するこ

とができ、多くの方に当事業の紹介、武雄市の情報発信ができたと考えている。

③昨年度まで事業委託をしていた「株式会社まちづくりクリエイティブ」が引き続き、民間主導で事業を継続することになっており、創業支援等を行っていく予定。

【五十嵐】クリエイター・アーティストについて、招聘して終わりではなく、今後、そのアーティストが武雄市に住み、活動や情報発信をしていくことが理想。

クリエイター・アーティストの移住に繋がるように努めていただきたい。

→【秋月】先ほど申し上げた通り、今年度から空き家を活用して、「株式会社まちづくりクリエイティブ」が事業展開しており、そのスタッフも武雄市に移住してきたところ。今後、市としても当事業をきっかけにクリエイター・アーティストとの交流を通して、移住に繋げていきたい。

・平成 30 年度事業

武雄市ブランド構築事業（広報課）

さが未来スイッチ交付金事業（武雄市ブランド構築事業）について、広報課 大野課長より報告。

【五十嵐】シティプロモーションは、市職員だけでなく、民間活用が必要。全国的に見てもその傾向があり、今後の事業展開を考えると是非配置をお願いしたい。

→【大野】確かにその傾向が強いと思う。昨年度までメディアに強い人材を嘱託職員として雇用し、広報等の業務を行ってきた。今年度はその業務を外部委託することになるが、引き続き同じ方をお願いすることになっている。

また、当事業は専門性が高いため、外部委託を行いながら、必要に応じて専門スタッフの配置についても検討したい。

【小杉】これまでの市のキャッチフレーズは使用しないのか。

→【大野】観光分野での情報発信としては活用できるものであるため、今後も使用したい。しかしながら様々な媒体での使用、子育てや移住等の幅広い分野に対応できるものを今回制作したいと考えている。場面に応じて、切り分けをしながら活用していく。

(2) 武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中間報告について

総合戦略概要及び KPI 進捗状況について、企画政策課 永尾係長より報告。

【小杉】認知症サポーターは、今後も是非、継続していただきたい。

【江口】まちなみ創造事業は、総合戦略のどこに反映されているか。

→【永尾】横断的な取り組みとして捉えており、事業展開によって、KPI 値の創業件数や交流人口に影響するものと考えている。

【江口】観光消費額はどうやって算出するのか。

→【永尾】各施設の利用状況の聞き取りや交通費等を勘案して算出している。

- 【五十嵐】外国人観光客数が伸びている。地方に外国人が来ている中で、武雄市も国のターゲットを決める必要がある。低料金で泊まることができる宿泊施設も視野。ターゲットを分けることで旅館とのすみわけができるのではないかと。様々なニーズに対応した取組みをお願いしたい。
- 【松尾】アクティビティ観光（染物や焼き物も含め）を主軸として、シンガポール事務所と連携しながら、インバウンド事業を展開していきたい。また、クルーズ船等の広域観光も視野に進めていきたい。

（3）平成30年度武雄市の取組について

平成30年度武雄市の取組について、企画政策課 永尾係長より報告。

- 【川原】循環バスの乗客数について、利用者が減少していて、勿体ないと感じる。他市町で行っている送迎サービス、特に高齢者のニーズに沿った取組みを行ってほしい。
- 【松尾】今年度、高齢者パッケージのお出かけ支援事業や若木町デマンドタクシーの運行を開始した。状況を把握しつつ、研究して次の事業に繋げていきたい。
- 【五十嵐】工業団地については、高卒者の採用が多いのが現状。大卒者でも地域で働くことができる場の創出が必要。
- 【江口】新幹線開通を見越して、待ち時間でも地域観光をできるような仕掛けが必要。武雄市がただの通過駅にならないようにしたい。
- 【松尾】高架下を活用した新幹線活用事業や新幹線活用プロジェクトにより議論を重ねていく。
- 【小杉】武雄市には多くの観光資源がある。リピーターを増やしていきたい。観光マップを活用しつつ、スタンプラリー等で特典。訪れた観光客のワクワク感を創出できれば。
- 【大野】文化会館庭園、大楠、図書館、競輪場等、様々な周遊パターンを考えることができるようになった。今後、広報課と観光課が連携して検討していきたい。
- 【五十嵐】マイカーがないと移動できない。ユニバーサルデザインを考慮した移動手段が必要。

< 武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI進捗状況調査 >

武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略 策定値				実績値					
	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26年度)	目標値	H28年12月	H29年12月	実施した事業内容	KPI達成に係る事業評価	KPI達成に向けての課題	
基本目標① 仕事を創出し、所得を上げる	総論	新規求人数	5,488人	5,800人 (H31年度)	5,814人	6,289人			
	具体的施策(1)企業誘致	企業誘致数	1社	5社 (H27年度～H31年度)	2社	0社	・企業訪問などの企業誘致活動 ・新工業団地整備事業の推進 (H28年度:調査業務、H29年度:測量・地質調査・基本設計)	・新工業団地整備事業については概ね予定どおりに進捗している。	・武雄北方インター工業団地の売上に伴い、企業側からの引き合いは内々であってはいるものの武雄市として企業に紹介できる土地がなくなっている。企業誘致を推進するためにも新工業団地の整備は必要不可欠であり、早期の分譲開始ができるよう努めていきたい。
	具体的施策(2)地域経済活性化	創業支援相談件数 創業件数	25件 3件	50件 (H31年度) 15件 (H31年度)	48件 3件	16件 2件	・創業支援(武雄市地域雇用創造協議会の設置) ・まちなみ創造事業	若干進捗が遅れている	・専門知識をもつ相談員の確保 ・創業希望者の発掘
	具体的施策(3)就労支援	市の協議会・審議会に占める女性の割合	34%	40% (H31年度)	33.70%	36.00%	・啓発活動 ・男女共同参画推進計画策定 (H30.3)	順調に進捗している	市民と行政が一体となった体制づくり
		障がい者の雇用者数	474人	500人 (H31年度)	-	610人	・障がい者、事業者双方にアンケートを実施(マッチング) ・障がい者雇用データベースを更新	順調に進捗している	武雄市地域雇用創造協議会との連携(ハローワーク、商工団体等)
		佐賀県内就職率	32.90%	10%以上向上 (H31年度)	29.10%	25.80%	・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)		
	具体的施策(4)魅力ある農林業の振興	青年等就農計画数	2人	3人 (H31年度)	6人 (のべ8人)	2人 (のべ10人)	・新規就農者支援事業(収納相談会や農業研修会の実施) ・きゅうりトレーニングファーム推進事業(2期生入校)	順調に進捗している	・市内のトレーニングファーム研修生がいることから達成可能の見通し ・PRIについて、市広報だけでは不十分なためマスコミを活用していく ・他市の事例も参考にしながら後継者確保に取り組む
基本目標② 最高の子育て・教育環境をつくる	総論	合計特殊出生率	1.70人 (H20年度～H24年度)	1.80人 (H31年度)	-	-	・小児時間外診療365日体制 ・子どもの医療費助成現物給付化 ・子どもの貧困対策		
	具体的施策(1)武雄市図書館を中心とした都市魅力アップ	武雄市図書館来館者数	80万736人	80万人 (H31年度)	72万8242人	68万8710人	子ども図書館整備(H29.10オープン) 各種講座・イベントの充実	子ども図書館のオープンによる来館者の増や更なる子育て支援の充実が期待できる。	市民価値の高いサービスの継続 指定管理者(CCC)との連携
	具体的施策(2)子育て・家庭支援	1歳6か月健診の未受診率	4.60%	0% (H31年度)	3.60%	3.00%	・乳幼児健診事業	概ね順調に進捗している	1歳6か月という年齢は「発達質的に変化する」年齢である。その時期の健診を確実に受診することで、フォローが必要な場合に早期の支援につなげることができる。
		家庭児童相談件数	358件	360件 (H31年度)	344件	329件	・来庁者、電話による相談 ・家庭訪問による相談 ・研修会、各会議出席	概ね順調に進捗している	・相談窓口の周知 ・庁内、各関係機関連携強化
		病児保育利用者数	24人	456人 (H31年度)	28人	27人	・病児・病後児保育施設設置 (H30.4受入れ開始)	施設開設により利用者の利便性向上が期待できる	施設、医師会との連携
		放課後児童クラブを利用した保護者の満足度	82.6% (H25年度)	90% (H31年度)	96%	93.50%	・放課後子ども教室の実施 ・施設整備(H29御船ゆめこクラブ新築)	順調に進捗している	待機児童対策 民間事業者との連携 空き教室、公民館の活用等
具体的施策(3)教育環境整備	子どもの学習意欲向上度 (とても楽しみと少し楽しみを足した割合)	85%	90% (H31年度)	87.30%	87.53%	・ICT教育推進事業 ・新たな学校づくり事業(コミュニケーションスクール、花まる学園) ・地域学校協働本部事業 ・ALT活用事業 ・学校適応指導教室事業 など	「学校に行くのは楽しいと思う」という設問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は上がっている。事業効果有り。	・不登校児童生徒の割合について減少傾向にあるが、さらに減少するような支援体制の強化 ・いじめ防止対策の推進 ・地域学校協働活動体制の見直し	
基本目標③ 生きがいと健康を実感できるまちをつくる	総論	健康寿命	男性78.45歳 女性83.12歳 (H24年度)	1歳延伸 (H31年度)	-	男性79.09歳 女性83.23歳 (H25年度分)	・健康ポイント事業 ・企業との連携事業(女性のための健康セミナー) ・地域包括ケアシステムの構築	概ね順調に進捗している	遡っての算定となり評価が難しい。
	具体的施策(1)生きがいづくり推進	青年向け講座	今後実施予定	40人 (H31年度)	30人	12人	まちづくりを語る高校生会の会(H28)プログラミング学習会(H29)	若年層の地域ボランティアへの意識の醸成	市民協働課との連携、活動の継続
		高齢者大学参加者数	155人	195人 (H31年度)	163人	155人	・補助金の交付 ・みふねやま大学院の設立	高齢者の学びの場の提供	受講者の需要についてきちんと精査が必要
	具体的施策(2)健康増進	国保の特定健診率	36.70%	50%(H31年度)	42.60%	46.4%	・特定健診 ・特定保健指導	目標率は達成していないが、年々受診率が向上しており、医療費適正化にもつながっている。	・対象者に合わせた継続受診勧奨 ・医師会や医療機関との連携強化 ・早期介入保健指導
		週3回以上朝食を抜く人の数	6.7% (H25年度)	1.7% (H31年度)	6.60%	7.38%	・家庭訪問 ・健康相談 ・結果説明会	朝食をとることで、昼食・夕食後の急激な血糖上昇を抑えることができ、糖尿病発症のリスクや肥満のリスクの軽減につながる。	仕事や家庭のやむを得ない事情などを考慮し、個別で保健指導をしていく必要がある。
	具体的施策(3)介護・高齢者福祉	認知症サポーター登録者数	2,831人	6,900人 (H31年度)	3,540人	4,049人	認知症サポーター養成講座(市内中学校、市職員など)	認知症についての理解が住民に広がり、認知症の人や家族が安心して生活できる地域づくりにつながる。	キャラバンメイトの活用と地域包括ケアシステムの構築推進
具体的施策(4)障がい福祉	障がい者(児)が自立した生活をするためのサービス利用者数	575人	690人 (H31年度)	614人	660人	・障害福祉サービス事業 ・地域生活支援事業 ・児童通所支援事業	順調に進捗している		
具体的施策(5)生活環境改善	生活困窮者自立支援対応件数	H27年度より実施	240人 (H31年度)	158件 (延557件)	132件(延699件)	・自立相談支援 ・家計相談支援	概ね順調に進捗している	・社会から孤立した生活困窮者の対応	
基本目標④ 来てもらう・住んでもらうまちをつくる	総論	交流人口	180万人 (H25年度)	200万人 (H31年度)	183万人	180万人			
	具体的施策(1)国内・海外誘客	観光消費額	110億4372万円 (H25年度)	125億円 (H31年度)	112億5367万円	110億7691万円	・地域資源を活用したまちあるき事業 ・体験型ツーリズム事業 ・観光振興・PR事業 ・観光コンシェルジュ事業 ・九州オルレコース整備事業 ・外国人観光客受入環境整備事業	若干進捗が遅れている	・外国人観光客受入環境整備 wi-fiの整備が概ね達成したことで、バリアフリー化、トイレの洋式化に事業を見直す必要がある。
		外国人観光客数	2,671人 (H25年度)	10,000人 (H31年度)	9,419人	11,458人			
	具体的施策(2)Uターン・教育移住推進	周辺部地域への移住者数	14世帯	20世帯 (H31年度)	23世帯 75人	15世帯 34人	定住特区補助金事業 空き家バンク新規物件登録事業	概ね順調に進捗している	定住特区補助金制度は対象エリア等対象要件見直しの必要がある。
具体的施策(3)スポーツ大会等誘致	スポーツ大会の宿泊者助成数	1,614人	1,800人 (H31年度)	2,411人	3,226人 (合宿・大会誘致分)	・競輪場を活用したスポーツ活性化事業 ・スポーツ合宿、各種大会誘致事業 ・武雄温泉リレーマラソン事業(H28のみ)	順調に進捗している		
基本目標⑤ ほどよい田舎で楽しく暮らす環境をつくる	総論	人口の社会増減数	▲216人 (H25年度)	▲108人 (H31年度)	▲251人	▲64人			
	具体的施策(1)定住環境整備	超高速通信網のエリアカバー率	55.60%	100% (H31年度)	92.66%	92.66%	CATV事業者、NTT西日本(FTTH整備事業)について情報収集	概ね順調に進捗している	FTTH整備困難地域への費用負担等のあり方について関係各課と協議
	具体的施策(2)地域づくり支援	CSO提案型協働創出事業 提案数・実施数	提案数8件・実施数0件	提案数12件・実施数8件 (H31年度)	提案数6件 実施数5件	提案数4件 実施数3件	がんばる地域応援交付金	概ね順調に進捗している	補助対象事業の整理 財源の確保
	具体的施策(3)地域の交通確保	循環バスの乗客数	19,705人	21,000人 (H31年度)	19,544人	17,294	・目的別時刻表の作成、配布 ・一部運行ルート改正	進捗が遅れている	事業者、地域との調整
具体的施策(4)武雄版里山ビジネスモデルの確立	特産品化数	H27年度より実施	7品目 (H27年度～H31年度)	3品目	3品目	・地域(里山)資源の発掘事業	地域資源を活用したジンジャーシロップ・インシシ油(化粧品)が商品化されたため、効果あり	新たな地域資源の発掘のため、2品目の試験栽培(アマラビ・ヨモギ)に取り組む予定なので達成可能の見通し	